

## 中国語の否定応答表現“没有”について

新 沼 雅 代\*

### The Negative Response “meiyou” in Chinese

NIINUMA Masayo

#### abstract

汉语的“没有”一般可以有两种解释。一个是表示否定领有和存在，另一个是表示时态标志的否定。由于汉语缺乏形态变化，因此从形式上无法判断是否定回答形式还是否定词。实际上，有些否定回答形式“没有”是上述两种解释难以说明的。本文对“没有”从对话功能的角度进行讨论，认为其对话功能为：对于提问者的某种判断，回答者可以表示积极的否定。能用“没有”回答的条件是，提问时需要用语气词和语境等表示提问者的信疑度。

Keywords : negative response, meiyou, bias, cognitive process, utterance

#### 1. はじめに

中国語に“没有”という否定応答表現がある。質問がモノの有無、完了などのアスペクト、状態や性質を問題にしている場合、“没有”の応答は、質問との文法的呼応として説明できる。しかし、現実には、文法的に説明できない場合がある。例えば(1)のような場合である。

(1) A: “你故意气我是不是?”

B: “没有, 我是气我自己。”

(王朔<过把瘾就死>)

ニュアンスの違いを問題にしなければ、(1)の“没有”は、“不是”でも可能である。Aの発話に“是不是”が用いられており、形式的には“不是”のほうがより文法的な応答であるといえる。質問<sup>1</sup>との文法的呼応で、(1)の“没有”の使用を説明することは限界がある。日本語の応答詞は、話し手が相手発話をどのように処理したのか、その反応を端的に表わすものである<sup>2</sup>。相手発話を話し手がどのように受け取り、そしてどのように処理したかによる、という意味で、応答詞の使用は話し手主体であるといえる。質問との文法的呼応で説明できない(1)のような使用があることを考えると、中国語の「否定応答表現」も、日本語の応答詞同様に話し手主体であるといえよう。

そこで、本稿は、(1)のような“没有”の応答について認知言語学的観点から考察を加え、その使用に語用的な説明を与えることを目的とする<sup>3</sup>。

#### 2. 先行発話の形態的概観

以下では、文法的に説明できる応答“没有”について簡単に確認する。便宜上、先行発話を疑問形式に限る。(以

---

キーワード：否定応答表現、“没有”、傾き、認知過程、発話

\*平成18年度生 比較社会文化学専攻

下 NP、VP、AP は裸の N: 名詞、V: 動詞、A: 形容詞も含む。）

①所有、存在の否定

- ・有 + NP + 吗: (2) 这里有人吗?<sup>4</sup>
- ・有 + NP + 没有: (3) 网页论坛改版了, 大家有什么意见没有?
- ・有没有 + NP: (4) 有没有什么不适的感觉? (王朔<千万别把我当人>)

②完了、経験、持続、変化の否定<sup>5</sup>

- ・VP + 了 + 吗: (5) 你听见了吗? (万方<在劫难逃>)
- ・VP + 了 + 没有: (6) 你听见了没有? (曹禺<北京人>)
- ・VP + 没 VP: (7) 你听(见)没听见?
- ・V + 过 + 吗: (8) 你想过吗?
- ・V + 过 + 没有: (9) 你想过没有? (万方<没有子弹>)
- ・V + (过) + 没 V + 过: (10) 你想(过)没想过?
- ・有没有 + VP: (11) 有没有碰见合适的主儿? (王朔<刘慧芳>)

③状態(状態変化)、性質の否定<sup>6</sup>

- ・N + (有) + 这么/那么 + A + 吗: (12) 问题(有)那么严重吗?
- ・A + 吗: (13) 你弟弟像他一样聪明吗?
- ・AP + 了 + 吗: (14) 衣服干了吗?

一方、本稿の考察範囲である応答“没有”は、以下の用例にみられるような“没有”である。

④(15) 杨澜: 你会认为自己是一个欲望比较强的人吗?

章子怡: 没有。 (《兰州晨报》王森·王毅·姜丽 2006.15 より転載)

(16) “你笑谁?” 韩丽婷指问李缙宁。

“没有。” (王朔<无人喝彩>)

(17) “瞧, 笑成这样, 准知道你得把我说的话当成孩子话听。”

“没有没有。” (王朔<我是你爸爸>)

以上を次の表1にまとめる。太線で囲んだ④が本稿の考察範囲である。

表1

	先行発話の形態	応答“没有”	文法的説明
①	有 + NP + 吗 有 + NP + 没有 有没有 + NP	} 可	応答“没有”は、所有・存在の否定
②	VP + 了 + 吗 VP + 了 + 没有・VP + 没 VP V + 过 + 吗 V + 过 + 没有 V + (过) + 没 V + 过 有没有 + VP	} 可	応答“没有”は、完了・経験・持続・変化の否定
③	N + (有) + 这么/那么 + A + 吗 A + 吗 AP + 了 + 吗	} 可	応答“没有”は、状態(状態変化)・性質の否定
④	(15) 你会认为自己是一个欲望比较强的人吗?	規範的には不可であるが、実際の用例がある。	応答“没有”は、文法的説明は未解明

### 3. 実際の発話における使用

以下では、“没有”の用例をみてみたい。(18)から(20)の用例はいずれも中国中央電視台のインタビュー番組<名将之约><艺术人生>からのもので<sup>7</sup>、訳は筆者による。

(18) (リフティング選手の唐功红は、有名人と一緒に写真を撮るという趣味があり、そのコレクションを会場のスクリーンに順々に映している。それを見ながら...)

司会者(女性): 这是张怡宁, 张国政, 这是我的同行小崔, 朱军, 毕福剑, 都是男明星啊。(これは張怡寧、張国政、これは私の同業者小崔、朱軍、畢福劍、みんな男性スターね。)

唐功红: 没有。(ちょうど司会者と撮った写真が映る) 还有你呢。(いえ、あとあなたもいますよ。)

(<名将之约> 2006.8.27)

(19) (普段は朴訥としているのに、撮影時は様子ががらりと変わるゲストに対して、監督役をやるのでここで演技してくれないか、と司会者が頼んだが、ゲストは首を振り断った。)

ゲスト: 其实我是一个非常害羞的人, 所以才当演员的。我想不然的话我当主持人。(実は私はとても恥ずかしがりやなんです。ですからこそ俳優になれるんです。もしそうでなければ私は司会者になります。)

司会者: 意思是我脸皮厚这个(笑)。(意味は、私は面の皮が厚いつてか。)

ゲスト: 没有。因为我觉得我在演戏的时候可以永远躲在一个角色后面。(いや、私は演技しているときずっと一つの役の後ろに隠れていられると思うからなんです。)

(<艺术人生> 2004.9.29)

(20) (唐功红のファンだという、テニスコーチ、保険会社社員、コックの男性3人が会場に呼ばれる。司会者が恋人を選ぶ条件は何かと唐功红にたずねると、友達からなら3人ともいいと答える。)

司会者: 普通朋友都是可以, 那倒是蛮丰富的。又有人教你打球, 有人给你做保险, 还有人给你做好吃的。(普通の友達ならみんなOK、だったらとっても豊富じゃない。テニスを教えてくれる人、保険をかけてくれる人、おいしいものを作ってくれる人。)

唐功红: (恋人を無理やり作らせようとする番組の流れにややうんざりぎみに) 谢谢。(ありがとう。。。)

司会者: 没有。跟你开个玩笑, 开个玩笑。(いえ、冗談よ、冗談。)

(<名将之约> 2006.8.27)

中国語母語話者によると、ニュアンスの違いが生じることを問題にしなければ、(18)(19)はともに、先行発話に“是”が使われていることから、“不是”で応答されるのが一般的であり、(20)は“没有”の代わりに“不”、“不是”でも可能であるという。

### 4. 応答“没有”の成立状況

以下では、応答“没有”がどのような状況下で成立するのかについて考察する。本稿での結論を先に述べておくと、応答“没有”は、先行発話に「傾き」がある場合にのみ成立するのである。用例をみていく前に、「傾き」についてまず確認しておきたい。

#### 4-1. 傾き (bias)

本稿における「傾き」の定義は劉月華(1987)にならう。同論文では、質問をする際、質問の答えに対して質問者自身が持つ見込みを“意向”“句意傾向”としている。同論文は続けて、「質問者は(質問する際、見積もったり、推し量ったりして)すでに答えを持っている場合と持っていない場合がある。もし、答えを持っている場合その答えは肯定か否定のものである。時には、質問者は本当は質問をしたいのではなく、他に目的がある。この種の非質問性の目的も文意傾向とみなす。」としている。そこで、本稿では、劉のいう“意向”“句意傾向”を「傾き」と呼ぶこととする。

この「傾き」を用いて、上の(18)～(20)を説明すると、「あなたが撮った写真はみな男性スターとである(18)」、「あなたは面の皮が厚い(19)」という相手発話の「傾き」を、話し手は“没有”を用いて否定しているのだと考

えられる。(20)は、唐功红が「ありがとう」と言っているが、内心嫌がっているのを司会者が見てとり、恋人を作らせようと本気で考えているのではないことを表わすために、“没有”で唐功红の間違った推測(つまり「傾き」)を否定していると考えられる。

次に、“有没有+VP”における「傾き」について少し触れたい。

#### 4.2. “有没有+VP”の傾き

邵敬敏・朱彦(2002)は、正反疑問文における質問者の“信疑度”について述べている。同論文のいう“信疑度”は「傾き」の「肯定・否定の傾向度」と解釈してよいと考える。邵らによると、一般的な正反疑問形(以下、“V不/没V”疑問文)は肯否の傾向度が50%ずつであるとしたうえで、“是不是+VP”を“吧”と比較し下記のように表現している。同論文から引用し図1とする。

図1

50% < “是不是+VP” 正反問的信度 < 100%  
75% < “吧”字是非問信度 < 100%

まとめると各疑問文の「傾き」は、(21)のようになる。

- (21) ①你去不去北京? 肯定 50% (邵ら 2002 より)  
②你是不是去北京? 肯定 (約) 50 ~ 100% (同)  
③你去北京吧? 肯定 (約) 75 ~ 100% (作例)

さらに同論文は“有没有+VP”と“是不是+VP”について、“有没有”“是不是”がともに(“~, 有没有?” “~, 是不是?”という形で)文末に来ることができ<sup>8</sup>、また“有没有”“是不是”を前置することで、複雑なVP(フレーズ内にさらに別のフレーズを埋め込んだVPなど)を目的語部分にとることができるなど、両構文の共通点を挙げている。董秀芳(2004:5)は、この邵論文を踏まえ、“有没有+VP”は、質問者が発話内容に対し、多くの場合「肯定」の態度を表わす傾向にある<sup>9</sup>と指摘している。そこで、(22)を参照されたい。(22)の“有没有吧?”は、意味的に“有吧?”と同じである。つまり、ここでの“有没有”は、「肯定」への「傾き」を示していることになる。

- (22) “昨天晚上在街上我可看见你了。”(略)

“在哪儿?”

“你别管在哪儿了，有没有吧? ……和个男的。”

“没有。”周瑾笑着不承认。

(王朔《给我顶住》)

“有没有+VP”に対する応答“没有”は、2で本稿の考察範囲外であるとしたが、“有没有+VP”が肯定の「傾き」を持つことから、“有没有+VP”に対する応答“没有”は、先行発話の“有没有”と呼応しているだけでなく、「傾き」に対する否定である可能性も考えられる。

#### 4.3. 用例検討

以下では、応答“没有”が「傾き」のある質問に対して用いられているかどうか、用例を検討する。(23)(24)はそれぞれ、質問に“~是吗”、“是不是”が用いられており、それに対してももちろん“不是”で応じることが可能である。しかし、両例とも“没有”と答えている。

- (23) “想什么呐?”

“噢,”我收回纷飞的思绪,抬头笑笑说,“没想什么,哎,”我问小杨,“你们屋里那个姓于的挺讨厌我是吗?”

“没有呀,”小杨眉毛一挑,说,“没有,她对你挺感兴趣。”

(王朔《浮出海面》)

(23)は“你们屋那个姓于的挺讨厌我”という肯定文を先に提示し、“是吗?”を後接してその内容の是非を問うている。このことから(23)の質問は、あらかじめ肯定の傾向性を有しているといえる。

- (24) 鲁贵:(低声)他——不是也不断地塞给你钱花么?

四凤：（惊讶地）他？谁呀？

鲁贵：（索性说出来）大少爷。

四凤：（红脸，声略高，走到鲁贵面前）谁说大少爷给我钱？爸爸，您别又穷疯了，胡说乱道的。

鲁贵：（鄙笑着）好，好，好，没有，没有。反正这两年你不是存点钱么？（曹禺《雷雨》）

(24) は、「大少爷が四凤にお金をあげている、と誰かが言った、と四凤は思っている」ことを魯貴は“没有”で否定している。構造を図示すると、以下のようになる。

図2

[[[ 大少爷が四凤にお金をあげている ]<sub>1</sub>と誰かが言った ]<sub>2</sub>と四凤は思っている ]<sub>3</sub>

(24) の“没有”は、[]<sub>3</sub>を否定することにより、[]<sub>3</sub>に内包される[]<sub>1</sub>[]<sub>2</sub>も結果的に否定する。つまり、“没有”と応答することで、「大少爷は四凤にお金をあげていない」、「誰もそんなことは言っていない」ということも意味することになる。

次に、先行発話が疑問形式をとらない場合についてみてみたい。

(25) “你不好，这我知道。”马青说，“你表面看上去部优产品的感觉，但你心里其实特苦恼，对自个特不满意。”

“没有。”白脸姑娘说，（略）。（王朔《一点正经没有》）

(25) は、马青が“你不好，这我知道。”と切り出して、白脸姑娘に向かって白脸姑娘が“不好”である根拠を一方的に述べている。この疑問の形式をとらない马青の発話に対して、白脸姑娘が“没有”と応答しているのだが、この“没有”は、“没有部优产品的感觉”、“没有心里特苦恼”、或いは“没有对自个特不满意”とも考えられず、相手の一連の発話全体を否定の対象と捉えている。この“没有”を“不”で言い換えると、“我不是这样”などになる。

以上のことから、“没有”の先行発話には「傾き」があることが分かった。しかし、仮説「応答“没有”は、先行発話に「傾き」がある場合にのみ成立する」を立証するには、さらに「傾き」が無い発話には「没有」が使われないのかどうかを明確にしなければならない。

## 5. 「傾き」無しの発話

まず、「傾き」の無い発話や文とはどのような場合をいうのだろうか。一般的に“吗”疑問文は、傾きの無い純粹な疑問であるといわれる（董2004等）<sup>10</sup>。そこで、文脈を設定した(26)～(28)で、応答“没有”の可否をテストしてみると、応答“没有”は、(28)の“有人说”、“是吧”のように明らかに「傾き」のある相手発話に対して用いられやすい点が明らかになった<sup>11</sup>。

(26) 文脈：雑誌をめくっていると、体毛が一本もない珍しい猫が特集されていた。そこで、隣の机の同僚に尋ねる。

A：诶，你知道这种猫吗？

B1：不知道。这是什么呀？

B2：\*没有。这是什么呀？

(27) 文脈：行方不明になり捜索願の出ている猫が、某氏宅に監禁されているという情報が警察に寄せられる。警察が某氏宅を訪ねる。

A：请问，你知道这只猫吧？

B1：不知道。出了什么事儿吗？

B2：？没有。出了什么事儿吗？

(28) 文脈 = (27)

A: 请问, 有人说你知道这只猫, 是吧?

B1: 不知道。出了什么事吗?

B2: 没有。出了什么事吗?

(26) の B2 は、質問に「傾き」が無いからというよりも、“知道”を“没有”で否定できないという文法的理由で、応答“没有”の不可を説明できる。(27) の B2 は、母語話者の間でも判定に揺れが生じる。応答“没有”の許容度は、(26) より上がるものの、やはり“知道”を没有で否定できないため、“没有”の応答は使用しにくいという。しかし、(28) は、“没有”の応答が可能で、(26) (27) と異なり、「知道”を“没有”で否定できないため、応答“没有”が不可である」という理由が適用されない。(28) で“没有”の応答が可能である理由を、母語話者は、否定の対象が相手の発話全体であるためだという。先行発話からは、例えば“～, 是吧?”があるなどといったことから「傾き」のあるもののいくつかを見つけることができるだけである。そこで、“吗”疑問文に「傾き」が無いから“没有”が使えない、というアプローチをするよりも、“没有”と応答している場合の先行発話には「傾き」がある、と考える方が経済的だといえる。

## 6. 応答のパターン

以下では、中国語における可能な応答のパターンを(15)を例に整理してみたい。(15)の質問を数人の中国語母語話者にしたところ、次の数種類の答えがあった。(原文の応答は“没有”である。)

(15 再掲) Q: 你会认为自己是一个欲望比较强的人吗?

A: ①不(会)认为。

不(会)觉得。

②我觉得不是。

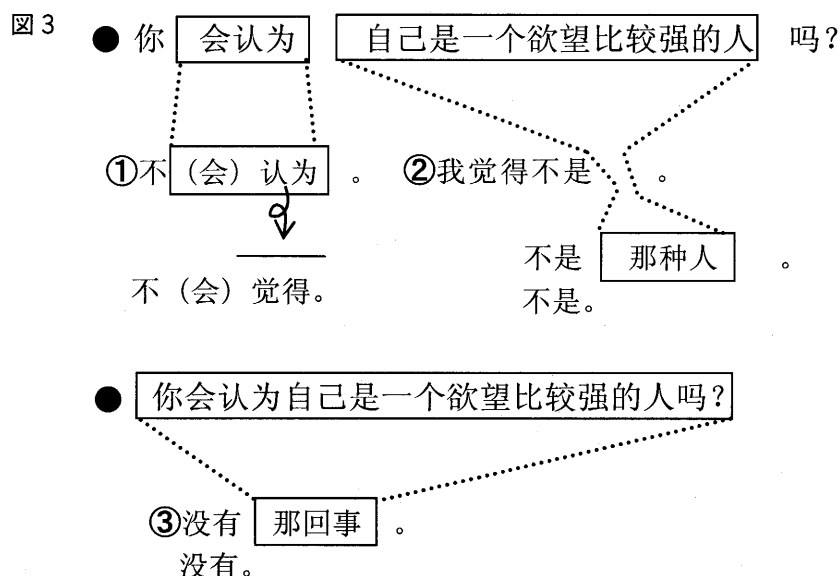
不是那种人。

不是。

③没有那回事。

没有。

“你会认为自己是一个欲望比较强的人吗?”に対する応答は、母語話者が挙げた①②③が一般的であろうと考える。同じ問いに対してこのように応答の仕方に違いが生じるのは、話し手が相手の質問のどの部分を焦点としているかが異なるからである。それを図示すると以下ようになる。図中の点線は、話し手が設定している否定の焦点を表わしたものである。



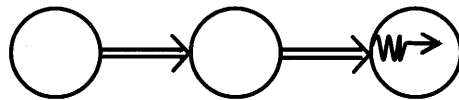
(15) は大まかに、「思う」という動詞と、「(思う) 内容」から成る。このように、動目構造の目的語部分にさらに主述構造をとる動詞は「认为」の他に「觉得」「想」「知道」などがある。大きな動目構造の動詞を本動詞、目的語部の主述構造の動詞を副動詞と便宜上呼ぶとすれば、(15) のような構造を持つ発話に否定で応じる際、応答①のように本動詞を否定するか、或いは類義の動詞に換えてその動詞を否定するのが一般的である。次に、主述構造の内容に踏み込んで、副動詞を否定する②のような応答も可能である。③の「没有」の応答は、現実の会話では頻繁に用いられる。そこで、中国語母語話者に「没有」の応答について説明を求めると、「没有」を「没有的事」や「没有那样的事」などと復元した。これは、質問した数人の母語話者にみな共通していた。さらに、③に比べ①②の方がより自然な応答だと感じるという。①や②のような、形式的により自然な応答があるのに、なぜ③のような応答が存在するのだろうか。それは、「没有」(③)の応答には①や②タイプの応答には無い働きがあることを示唆する。

## 7. 応答「没有」の認知過程

これまでの考察をまとめると、応答「没有」は、相手発話に「傾き」がある場合に用いられ、「傾き」は、言語形式で明示される場合と、文脈などに依拠し、言語形式で明示されない場合がある、ということである。ここで、応答「没有」は「没有那样的事」の省略で、「命題」やそのような事実はないといった「事実の存在」を否定しているため「没有」が用いられるのだ、という解釈について考えてみたい。このような解釈は、ある事態を「命題」や「事実の存在」と捉えることは、事態を「一つのモノ」として捉えることであり、それゆえに「所有・存在」を否定する「没有」が用いられるという考えに基づいている。確かに、Langacker (1987:102) の走査 (scanning) で示されるように、例えば「落ちる」を「落下」や「落ちること」と捉えることができるように、動態的なものを静態的に捉える認知能力を人間は備えている。しかし、一般的に、日常生活で起こる事態は「落ちる」のような単純なものではなく、動作主や被動作主、道具など複数の参与者間の動力的連鎖関係からなる (図4)。

図4

Agent (S)      Instrument      Patient (O)



Floyd hit/broke the glass with the hammer.

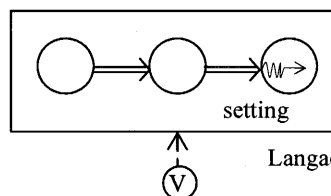
Langacker1990:220-221 より抜粋

図中の「○」は参与者 ( )、「⇒」はエネルギーの伝達、波打った

矢印は参与者の状態変化、太線はプロフィールをそれぞれ表わす。

事態を「落ちる」に対する「落下」のように、「名詞」的に捉えるには、図4のようにステージモデルの「観劇のメタファー<sup>12)</sup>」を経る必要がある。事態は時間、動力連鎖を捨象した「モノ」にはなりえないが、「ひとまとまり」として見ることはでき、それには、観察者 (viewer、図中 V で示す) というパースペクティブを介在させる必要がある。

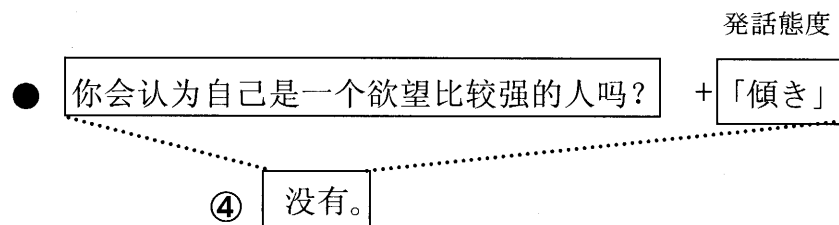
図5



Langacker1990:217

例えば (15) “你会认为自己是一个欲望比较强的人吗?”—“没有” の応答 “没有” は、“没有会认为自己是一个欲望比较强的人那样的事”であるから、所有、存在を否定する“没有”が用いられているのだという解釈は、“会认为自己是一个欲望比较强的人”は“那样的事”を用いて同格表現を構成すれば、名詞成分に変えられ、“没有”で否定できるという考えに基づいている<sup>13</sup>。そうであるならば、先にみた (26) B2 の“没有”は、“知道这种猫那样的事”を否定することになり、“没有”の否定の対象は“知道”から“~的事”へ変わり、“没有”の応答は成立するはずである。しかし、実際は、母語話者の判断は不可である。よって、文法的にこの応答“没有”は説明し難く、語用のレベルで説明を与えることが妥当であると考ええる。そこで、図3③の“没有”は、「傾き」を含めた相手の発話全体を否定のスコープに含むため、“没有那回事”と分け、④を設定する。(図6) 図6のように改める。没有。

図6



正確には、応答“没有”だけが質問者の「傾き」を否定する、と明言することはできない。なぜなら、「傾き」のある質問に対して“没有”ではなく“不足”などの否定応答表現でも応答可能だからである。どのように応答するか、幾種類の選択肢をもつなかで、回答者があえて“没有”を用いる場合は、回答者が、質問の「傾き」に対して、積極的にそれを否定したいときであることが本考察により明らかになった。応答“没有”は「事実の存在の否定」を表わす応答であるとするよりも、「回答者の「傾き」に対する積極的な否定」を表す応答としたほうが、現実の“没有”の応答の感覚には合っているのではないだろうか。4.3の(24)でも述べたが、“没有”は否定の応答であるため、質問で提示された事態は当然否定される。“没有”は、質問者の発話態度である「傾き」を回答者が積極的に否定する反動で、当該事態の否定がより強調され、応答“没有”の使用について説明しようとしたとき、「事実の存在」を否定しているといった、実際の使用の感覚とはやや乖離した解釈を与えてしまうのではないだろうか。

## 8. まとめ

本稿では、通説的な文法的理由では説明できない否定応答“没有”を取りあげた。詰まるところ、このような“没有”は、質問者の発話の内容を問題にして、回答者が応じているというよりも、質問者の発話に示される「傾き」を、回答者が積極的に否定するための応答表現であるといえる。換言すれば、応答“没有”の先行発話には「傾き」がなければならない。対話における応答“没有”のプロセスは主に以下の通りである。

- ① 質問者 A が、何らかに対してあらかじめ見込みをもつ。それは、肯定或いは否定のどちらでも構わない。(=「傾き」)
- ② A の発話に、語気助詞、文脈等の手段で「傾き」が示される。
- ③ 回答者 B は、A の発話に「傾き」を認識する。
- ④ B は、その「傾き」を積極的に否定するために“没有”を用いる。
- ⑤ 結果的に、A の発話で提示された事態も否定される。

## 註

1 以下、応答“没有”の先行発話を、疑問文、平叙文に関わらず「質問」「相手発話」「先行発話」と呼び、「質問」等を発する側を「質問者」、質問に対して応答する側を「回答者」「話し手」、さらに場合により、質問者、回答者の両方に「相手」という表現を適宜使用する。



- 2 田窪・金水 1998 は、感動詞や応答詞を、外部からの言語的・非言語的入力があったときの話し手の内部の情報処理状態の現れであるとし「心的モニター」とその機能を呼んでいる。
- 3 “普通话”における“有+VP”の使用について、内部発生的な可能性と広東語や閩南語等の言語及び文化的接触による影響が指摘されている(邢福义 1990、石毓智・李讷 2001、董秀芳 2004)。本稿では、前者の内部発生的立場で応答の“没有”について考察を進めていくこととする。
- 4 出典を断らない用例は、インフォーマントチェックを受けた筆者の作例である。
- 5 本稿では“着”については検討せず、今後の課題とする。
- 6 ③は吕叔湘 1999:383 を参考にした。
- 7 (18)～(20)の応答者の出身地は、それぞれ「雲南」「香港」「上海」である。“没有”の使用は、方言の可能性だとも考えられるが、筆者が、2007 年度お茶の水女子大学大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」の支援を受け、北京で行った否定応答表現に関するアンケート調査によると、本稿で問題としている“没有”の応答は、北京語話者においてもその使用が多く確認された。そのため、(18)～(20)を応答“没有”の用例として検証することに支障はないと判断した。なお、当調査については別稿を用意している。
- 8 董 2004 によると、“是不是”は、主語に前置することができるが、“有没有”はできない。  
例) 是不是你改变主意了?(董 2004 より) \*有没有你改变主意了?
- 9 原文は“很多时候倾向于表示肯定态度”。
- 10 刘月华(1987:118)は、“吗”疑問文にも肯定の「傾き」をもつ場合があるとしており、“吗”疑問文の「傾き」の有無に関しては問題が残るが、本稿では董(2004)にならい、“吗”疑問文には「傾き」が無いという立場をとる。
- 11 (26)～(28)はインフォーマントチェックを受けた筆者の作例である。\*(不可)、?(判定に揺れ)の判断は、数人の母語話者による。
- 12 「観劇のメタファー」とは話者が観客として事態を傍観する、というものである。図中の「setting」とは、比喩的に「ステージ」とみなされるもので、事態が起こる空間的場面や時間などが含まれる。言語的には副詞句・前置詞句で表わされる(河上 2003:116)。
- 13 朱德熙ら(1961:54)は、動詞、形容詞の名物化の問題の中で、どのような文、段落、ディスコースも後に“以上的话”等の表現で再指示することが可能であり、そもそも、「名詞と同格表現を構成することができる」「名詞、代名詞を用いて再指示することができる」という点を名詞の「文法特徴」として数えることに根拠がない、としている。(日訳松村・杉村 1988:254 参考。)

## 引用・参考文献

- 董秀芳(2004)「現代汉语中的助动词“有没有”」『语言教学与研究』第2期
- 河上誓作(2003)『認知言語学の基礎』研究社
- 刘月华(1987)「用“吗”的是非问句和正反问句用法比较」『句型 and 动词』语文出版社
- 吕叔湘(1999)『现代汉语八百词增订本』商务印书馆
- 松村文芳・杉村博文(1988)「動詞・形容詞の「名物化」について」『現代中国語文法研究』白帝社
- 邵敬敏、朱彦 2002 「“是不是 VP” 问句的肯定性倾向及其类型意义」『世界汉语教学』第3期
- 石毓智、李讷(2001)『汉语语法化的历程--形态句法发展的动因和机制』北京大学出版社
- 田窪行則、金水敏(1998)「応答詞・感動詞の談話的機能」『文法と音声』音声文法研究会くろしお出版
- 王森、王毅、姜丽(2006)「“有没有/有/没有+VP”句」『中国语文』第1期
- 邢福义(1990)「“有没有 VP” 疑问句式」『华中师范大学学报』第1期
- 朱德熙、卢甲文、马真(1961)「关于动词形容词名物化的问题」『北京大学学报・人文科学』第4期
- Langacker, Ronald W.1990. "Settings, participants, and grammatical relations." In Savas L. Tsohatzidis, ed., *Meanings and Prototypes: Studies in Linguistic categorization*, 213-238.London: Routledge.

(2008年1月11日受理)